

2016年医科初期研修マッチング報告

～県過去最高 118 名。長崎大学は全国 1027 病院中 6 位、奇跡の「フルマッチ」達成～

長崎大学病院医療教育開発センター 松島加代子・小畑 陽子・古賀 智裕・渡邊 毅
柴田 英貴・池田 喬哉・宮本 俊之・長谷 敦子・濱田 久之

日頃より医師会の先生方には、研修医の誘致及び教育に対して多大なる支援を頂き、心より感謝申し上げます。

今年度は、長崎県の初期研修希望者が 118 名、前年比 40% 増となるマッチ者数の上昇（増加率日本一）を達成しました。118 名という数字は、2004 年以前の入局制度時代の人数（2003 年は 105 名）を上回る快挙です。

この喜びを皆様と共有すべく、詳細をご報告いたします。

1. マッチングとは

2004 年に開始された新研修医制度では、約 9,000 名の医学生と約 1,000 の病院が、マッチングシステムという制度により、研修先が決定される。制度開始により、研修医は都会志向、大学病院離れと市中病院志向が高まり、地方の医療崩壊を招いたとの批判もあった。今年度、全体のマッチ者数の割合は、大学：市中病院が 57.3%：42.7% となった。都市^{#1}：地方^{#2}の比率は 41.7%：58.3% であった。

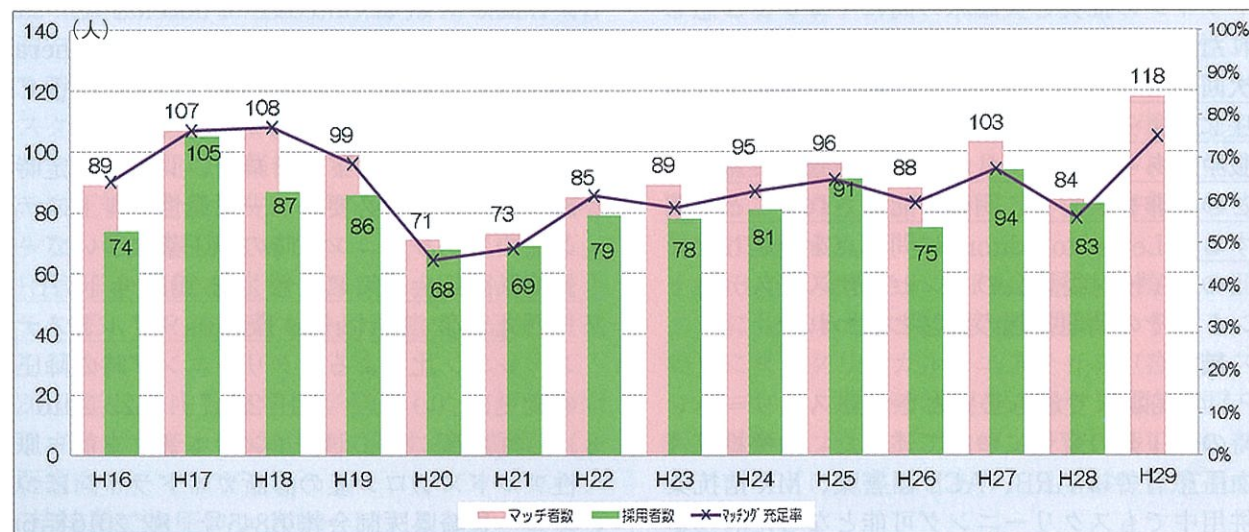


図 1. マッチング & 採用者数推移 (長崎県全体)

※ 1 都市部：大都市部のある 6 都府県（東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、福岡県）

※ 2 地方：上記以外の 41 道県

2. 県内マッチング数の推移

2004 年に 89 名、2008 年には 71 名と最低を記録し、低迷していた（図 1）。

2010 年に、新・鳴滝塾が結成された。新・鳴滝塾とは、長崎県の行政及び 15 の初期研修基幹型病院より構成され、県内の 17 の病院が一丸となり、研修医の勧誘・指導にあたった。以後、徐々に回復し、本年度マッチングでは 118 名を達成した。

3. 県内病院マッチング数

県内でみると、今年、主に増加したのは、長崎大学病院 67 名（昨年比 14 名増）、長崎医療センター 23 名（昨年比 8 名増）であった。県内各プログラム詳細は表 1 のとおり。

病院名称	プログラム名	定員	マッチ者数	空席数
長崎大学病院	長崎大学病院群基本プログラム	66	66	0
	長崎大学病院群周産期重点プログラム	4	1	3
長崎みなとメディカルセンター市民病院	長崎市立市民病院卒後臨床研修プログラム	12	5	7
長崎原爆病院	「日赤長崎原爆病院」卒後臨床研修プログラム	5	1	4
済生会長崎病院	済生会長崎病院初期臨床研修プログラム	4	3	1
上戸町病院	上戸町病院初期臨床研修プログラム	4	1	3
長崎医療センター	独立行政法人国立病院機構長崎医療センタープライマリアケア能力養成プログラム	19	19	0
	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター周産期研修プログラム	4	4	0
諫早総合病院	諫早総合病院初期臨床研修プログラム	5	3	2
市立大村市民病院	市立大村市民病院（基幹型）群臨床研修プログラム	2		2
長崎県島原病院	長崎県島原病院卒後臨床研修プログラム	3	1	2
佐世保市総合医療センター	佐世保市総合医療センター卒後臨床研修プログラム	14	10	4
佐世保中央病院	佐世保中央病院初期臨床研修プログラム	4	1	3
長崎労災病院	長崎労災病院卒後臨床研修プログラム	3	2	1
佐世保共済病院	佐世保市医師会ルネッサンスプラン 佐世保共済病院初期臨床研修プログラム	2		2
長崎県五島中央病院	長崎県五島中央病院 卒後臨床研修プログラム	3		3
長崎県上五島病院	長崎県上五島病院 卒後臨床研修プログラム	3	1	2
長崎県計		157	118	39

表 1. 長崎県研修プログラム別マッチング数

4. 増加の要因を分析

マッチ者数の増減は多数の要因が考えられる。要因 1) 長大の 6 年生の増加と卒前との連携、関連病院の努力

現長崎大学 6 年生は昨年 104 名で、今年 124 名と 20 名増加しており、定員数の増減は当然影響する。

また、長崎大学医学部の方針により大学の外での実習を促進しており、これにより早い段階（4、5、6 年生）から関連病院での短期及び中期間の実習が可能となった。医学生は、長崎の様々な病院を知ることになり、さらに関連病院の先生方の熱心な指導に触れることとなった。今年の特筆すべき結果としては、佐世保市総合医療センターのマッチングが、0 → 5 → 10 名と 3 年連続著明な増加している点である。これも長大医学部の卒前教育との連携の成果と思われる。

要因 2) 県外から医大生の誘致の成功 (図 2)

昨年 33 名で、今年 49 名と 16 名増加した。東京、大阪、福岡の説明会を主体に、スタッフで手分けをして説明ブースを出展している。また、長崎県内各病院への見学を推進、交通費補助を整備している。また、県外からの 250 名超の見学者全員へ、個別に臨床研修の概要説明や最新情報を継続して提供している。この動向に関しては、新・鳴滝塾の活動が大きく影響している。新・鳴滝塾



図 2. マッチ者の長崎県出身者・長崎大学出身者の内訳 (H29・28 年度)

は主に、①病院見学・受験の際の見学旅費サポート、②合同説明会・就職フェア（福岡、大阪、東京）への出展、③指導医の育成、など。このような活動を通して長崎県での研修をアピールし、研修医を誘致することを目的として、年間通じて活動している。

要因 3) 新専門医制度に関する情報提供

2018 年より新専門医制度が導入されるが、全国の情報や長崎県のプログラムの状況をいち早く伝え、安心して後期研修ができることを医学生へ説明した。情報は随時アップデートして周知している。

要因 4) 開業医の後継者への情報提供

個人情報のため詳細なデータは把握できないが、県外からマッチした医大生の半数近くは、開業医等の医療関係者の御子弟のようである。これは、大学および関連病院と医師会の先生方の協力体制がうまく機能した結果と思われる。また、長崎県の医療を紹介する長崎県医師会報による情報提供